

富士の今と昔③

古くは「吉原湊」と呼ばれた田子の浦港は、沼川と潤井川の合流点に建設された「堀込式人工港湾」で、昭和33年から10余年の歳月と総工費130億円をかけて完成しました。昔の写真中央には、逆潮を防ぐ石水門が見えます。



昭和60年3月の田子の浦港



昭和18年頃の吉原湊（写真提供 山田林作氏）



山田林作さんは、「東京人絹に勤めていた井上さんと一緒に撮影したが、今は消息がわからない」と話してくれました。

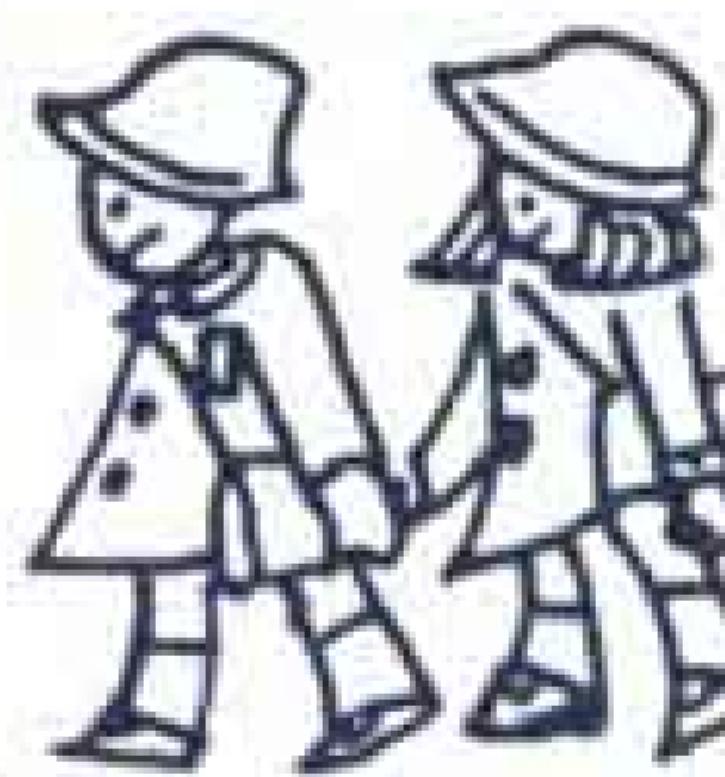


ヤブレガサ

満開のマメザクラや赤紫のミツバツツジが森を彩る頃、コブシの花がほころび、やがてヤマザクラ、オオシマザクラが陽春の光に輝く。枯葉の中からヤブレガサがユーモラスな姿を見せ、森の下生えや中低木の若葉がもえ始める。コナラの梢に銀緑の若芽も膨らむ。小道沿いにモミジイチゴの白い花、ツボスミレ、タンポポ、キバナヘビイチゴの花が咲き揃う。ルリタテハやヒオドシ蝶が姿を見せ、満開のサクラの花にメジロの群やヒヨドリが集まる。シジュウカラ、ヤマガラ、コカワラヒワが巣づくりを始める。新緑の森に早くも夏鳥が姿を見せる。アカハラ、クロツグミ、センダイムシクイ、これに抱卵するジュウイチ、ツツドリ、続いてトラツグミの「ヒー、ヒー」と不気味なさえずりが朝夕聞こえる。この季節、霧も深く雨が多く時に雷雨があり、落雷もある。雨の後、サクラやキブシの花が白露に飾られる。やがて、晴れた青空に新雪に飾られた富士がひときわ鮮やかに望まれる。

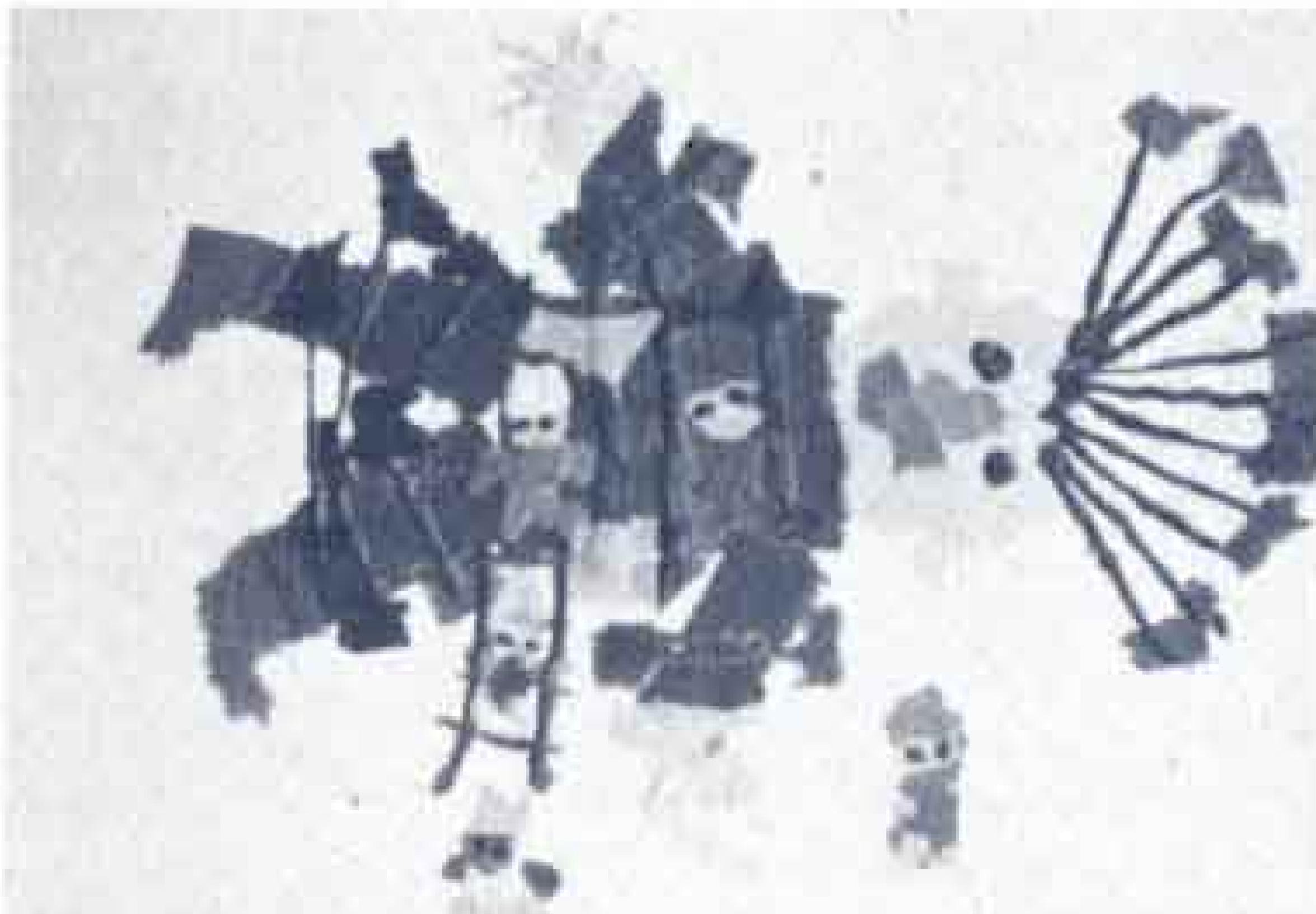


今月は、ふたば幼稚園のおともだちの作品を紹介します。全国はり絵展で金賞を受賞した作品です。

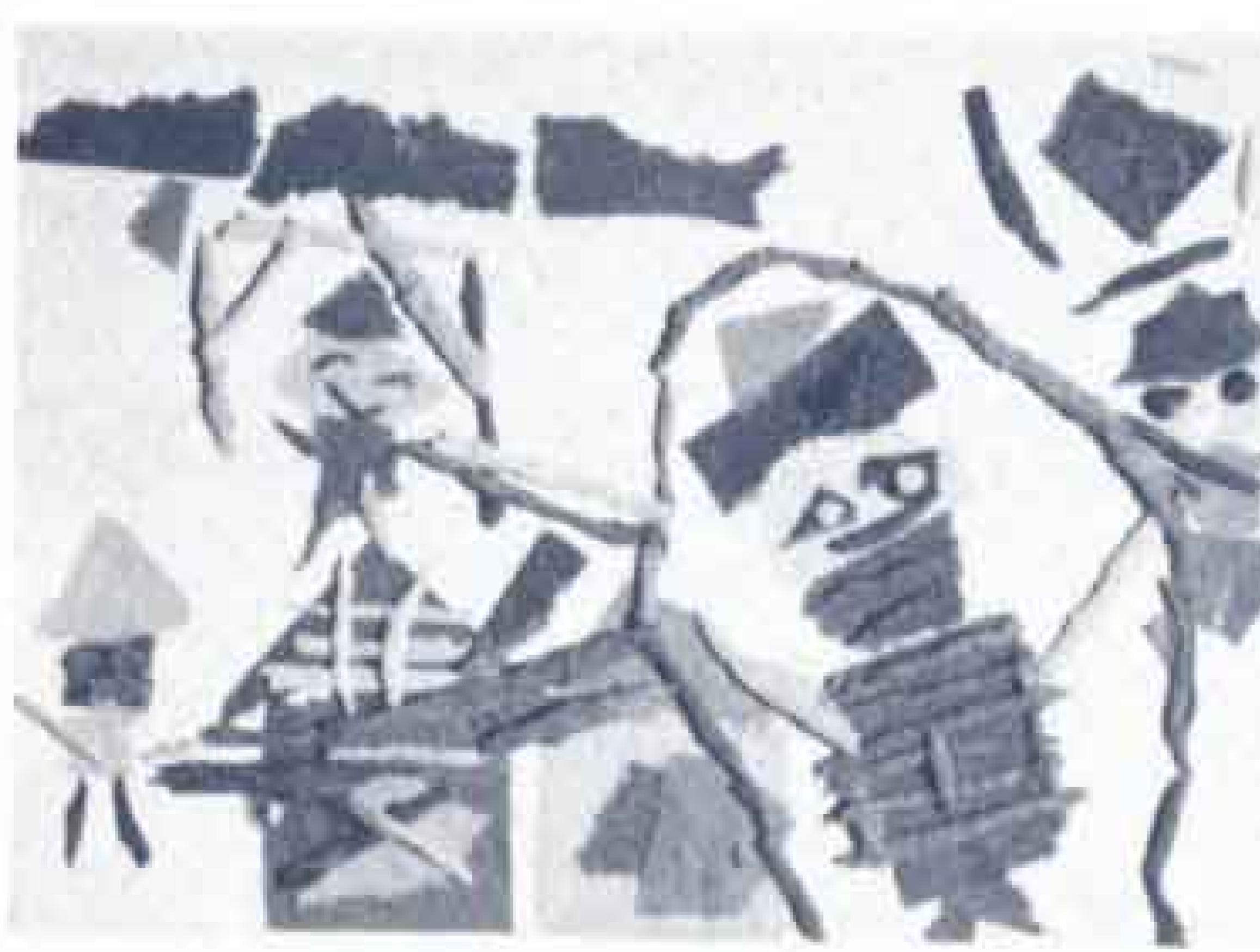


〈先生の話〉

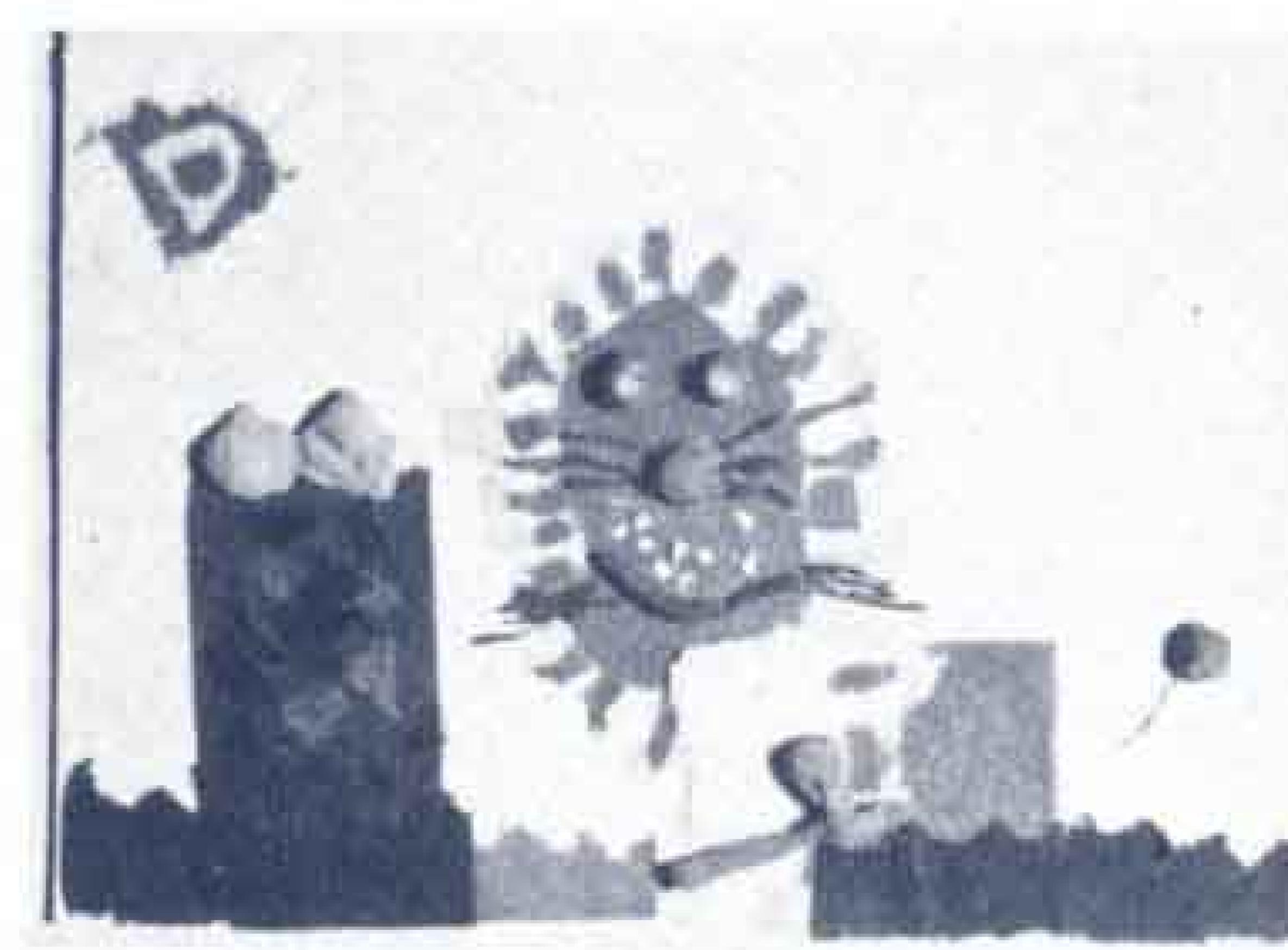
はり絵は思ったことや想像したことが自由に表現でき、またいろいろな形におきかえられるので子供たちは大好きです。ガリバーが小人と遊んでいるところや大好きなライオンをはり絵で表現しました。



「ガリバーと小人たち」吉永貴信



「ガリバー小人の国へ」松田奈美



「木を切りに来たライオン」大塚康成